

令和7年度 投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	農林水産部農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 谷垣和彦 (基盤整備班長 青田和彦)	内線	74316 (74342)																				
事業種目	ほ場整備	新規評価年度	平成27(2015)年度	現計画	新規評価時点																				
事業名	農地整備事業 (経営体育成型) ようぎ 養宜地区	事業採択年度	平成28(2016)年度	総事業費	37.7億円																				
		着工年度	平成28(2016)年度	内用地補償費	0.8億円																				
事業区域	みなみ 南あわじ市八木入田、八木養宜中、八木養宜上	完成予定年度	令和10 (2028)年度	令和6 (2024)年度	令和6 (2024)年度																				
		進捗率 (用補進捗率)	87.0% (100%)	- % (- %)	- % (- %)																				
		残事業費	4.9億円	- 億円																					
事業の目的				事業内容 ( ) 新規評価時点																					
<p>本地区は、南あわじ市北東部に位置しており、専業農家を中心に水稻、タマネギ・レタスの三毛作など農地を高度に利用した農業が展開されている。</p> <p>ほ場整備及び用水路のパイプライン化により、農作業の省力化を実現し、水稻及び野菜の生産コスト低減並びに野菜の生産拡大を図るとともに担い手への集積・集約を図る。</p>				<p>全体面積 93.3ha (99.5ha)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区画整理 54.1ha (58.9ha)</li> <li>・用水路工(パイプライン)39.2ha (40.6ha)</li> <li>・事業主体 兵庫県</li> </ul> <p>[負担割合 国:50.0%、県:27.5% 市:12.5%、地元:10.0%]</p>																					
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>「基幹産業として持続的に発展する農業の展開」の一端として、都市近郊の立地を最大限に活かし、タマネギやレタス等の収益性の高い野菜の生産拡大のためほ場整備事業を実施してきた。農業従事者の高齢化が進み、担い手不足が取り沙汰される中、生産効率の向上や労働力不足の解消が一層期待されている。</p> <p>【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>① 埋蔵文化財調査範囲の増及び保護盛土工の実施等により事業費を16.8億円増額する。 ② 労務単価、資材単価等の上昇により事業費を1.1億円増額する。 ①②を合わせて17.9億円増額する。 埋蔵文化財調査及び保護盛土工に期間を要したため工期を延長する (+4年)。</p>																								
進捗状況	進捗率は、令和6年度末現在、事業費ベースで87.0%となっており、区画整理54.1ha及び用水路工(パイプライン)39.2haは100%整備済みとなっている。残事業は農道舗装工の一部と補完工事、換地業務である。																								
評価視点	評価結果の説明																								
審査会意見及び対応方針 (H27年度新規評価)	【審査会意見】 着手妥当		【対応方針】 —																						
(1)必要性	<p>本地区は、営農意欲の高い専業農家が多数いるが、地区の北西部は区画が小さく、不整形なうえに、農道が狭いことから、小型機械での非効率な営農を強いられているため、ほ場整備をする必要がある。</p> <p>また地区南東部は過去にほ場整備を行っているが、用水路が老朽化し、水管理に多大な労力を要しており、水管理の省力化を図るための条件整備が必要である。</p>																								
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	<p>① 費用便益比 B/C=1.32 (1.47)</p> <p>(2)農業機械の導入による労働時間の短縮と担い手の育成</p> <p>10a 当たりの労働時間</p> <table border="1"> <tr> <td>タマネギ</td> <td>現況 225hr</td> <td>→計画 108hr</td> <td>(52.0%減)</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>現況 191hr</td> <td>→計画 140hr</td> <td>(26.7%減)</td> </tr> <tr> <td>担い手 (認定農業者) 数</td> <td>現況 32 経営体</td> <td>→計画 53 経営体</td> <td>(65.6%増)</td> </tr> </table> <p>(29.3ha) (49.7ha)</p> <p>③省力化による野菜等の作付面積の増加と収量増</p> <table border="1"> <tr> <td>タマネギ</td> <td>現況 30.3ha</td> <td>→計画 34.2ha (3.9ha 増)</td> <td>年間増収量 211 t</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>現況 21.8ha</td> <td>→計画25.7ha (3.9ha増)</td> <td>年間増収量 91 t</td> </tr> </table> <p>④同意率100%で地元協力体制を整え事業を開始した。地元集落では、多くの農家がほ場整備を契機にタマネギやレタスの増産に取り組んでいる。</p>					タマネギ	現況 225hr	→計画 108hr	(52.0%減)	レタス	現況 191hr	→計画 140hr	(26.7%減)	担い手 (認定農業者) 数	現況 32 経営体	→計画 53 経営体	(65.6%増)	タマネギ	現況 30.3ha	→計画 34.2ha (3.9ha 増)	年間増収量 211 t	レタス	現況 21.8ha	→計画25.7ha (3.9ha増)	年間増収量 91 t
タマネギ	現況 225hr	→計画 108hr	(52.0%減)																						
レタス	現況 191hr	→計画 140hr	(26.7%減)																						
担い手 (認定農業者) 数	現況 32 経営体	→計画 53 経営体	(65.6%増)																						
タマネギ	現況 30.3ha	→計画 34.2ha (3.9ha 増)	年間増収量 211 t																						
レタス	現況 21.8ha	→計画25.7ha (3.9ha増)	年間増収量 91 t																						
(3)環境適合性	<p>専門家による現地調査により、ほ場等に生息する水棲動植物が確認されていた。このため、工事中は地区外に待避させ、排水路の一部によどみなどを作り、工事後に戻すなどして棲息環境を確保している。</p>																								

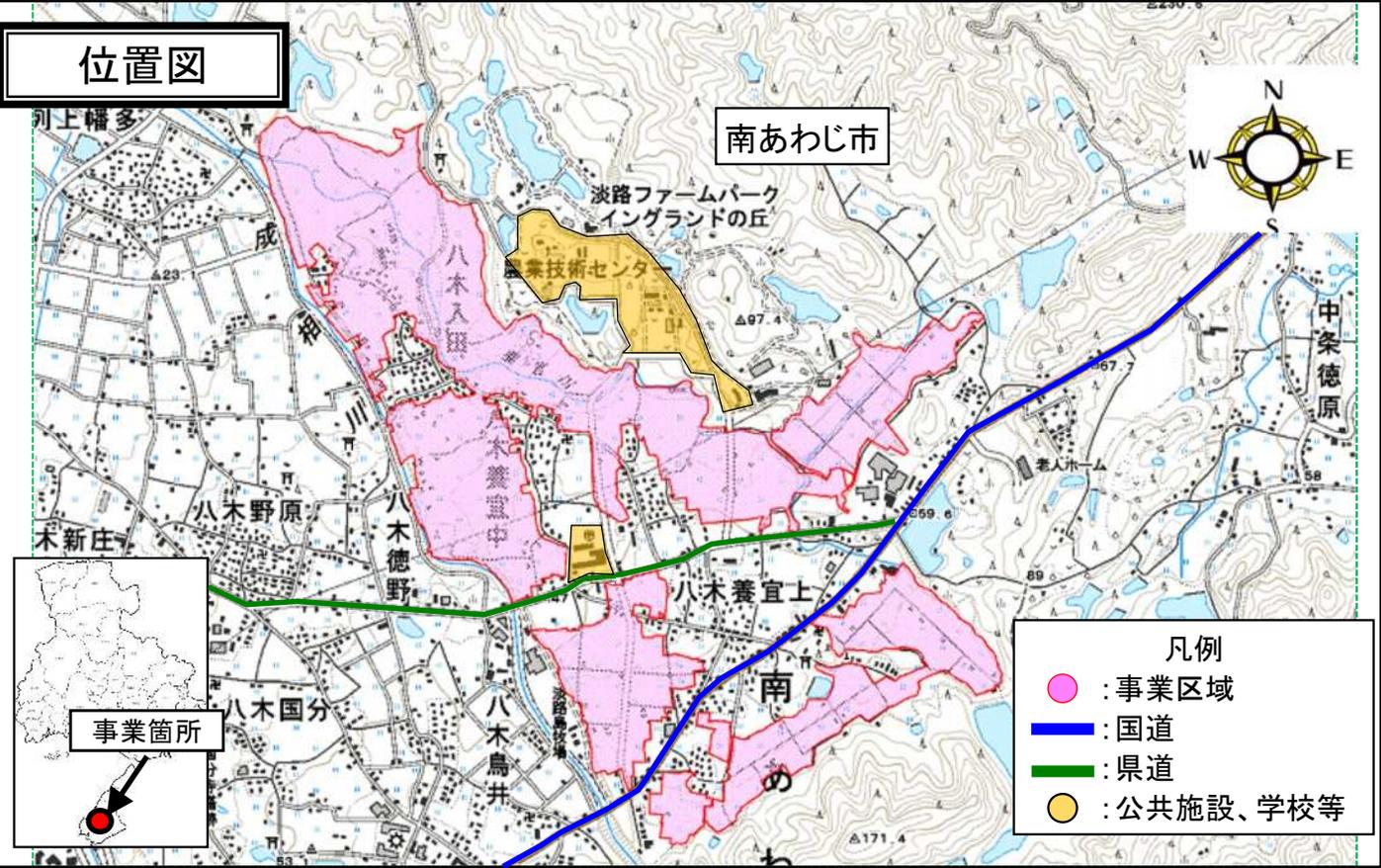
(4) 優先性	①本地区は淡路島内の農畜水産物の需要拡大と農畜水産業振興の拠点として開設した「あわじ島まるごと食の拠点施設（美菜恋来屋(みなこいこいや)）」に隣接している優良農地である。地区内で生産された農産物は京阪神地域はもとより同施設へも出荷され、地域経済全体への波及効果が期待される。 ②また事業により、地区内を通る西淡三原インターチェンジへのアクセス道路である市道大榎列(おおえなみ)古長田道路改良事業の用地、美菜恋来屋の駐車場用地等を創設するなど地域の一体的整備に寄与している。		
再評価の結果	継続	左の理由	事業進捗率は87.0%で、区画整理及び用水路工の主たる工事も完了している。地域農業の発展のため、事業を継続し、計画通り事業を完了することが妥当である。

事業進捗状況概要図（継続：再評価）

事業名	農地整備事業（経営体育成型）	路線・河川名	—
事業進捗状況・予定		整備効果	
全体 H28(2016) ～ R10(2028)	<b>【事業費＝37.7億円】</b> 区画整理 54.1ha 用水路工（パイプライン） 39.2ha 農道舗装工 12.6km	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業機械の導入による労働時間の短縮</li> <li>・ 区画拡大やパイプライン化による農作業の省力化</li> <li>・ 水稻及び野菜の生産コスト低減並びに野菜の生産面積拡大</li> </ul>	
事業採択～再評価まで H28(2016) ～ R6(2024)	<b>【事業費＝32.8億円】</b> 区画整理 54.1ha 用水路工（パイプライン） 39.2ha 農道舗装工 7.1km		
今後4年間（予定） R7(2025) ～ R10(2028)	<b>【事業費＝4.9億円】</b> 農道舗装工 5.5km 補完工事 1式 換地業務 1式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業機械の導入による労働時間の短縮</li> <li>・ 区画拡大やパイプライン化による農作業の省力化</li> <li>・ 水稻及び野菜の生産コスト低減並びに野菜の生産面積拡大</li> </ul>	

# 農地整備事業(経営体育成型) 養宜地区

## 位置図



## 目的

ほ場整備及び用水路のパイプライン化により、田畑輪換営農体系に適した汎用農地化を図るとともに、農地の利用集積を促進し、より収益性の高い持続可能な地域農業の実現に寄与する。

- ① 農作業の省力化の実現
- ② 水稲及び野菜の生産コストを低減することにより野菜の生産拡大を図る

## 事業概要

事業区域：南あわじ市八木入田、八木養宜中、八木養宜上

総事業費：37.7億円(19.8億円)

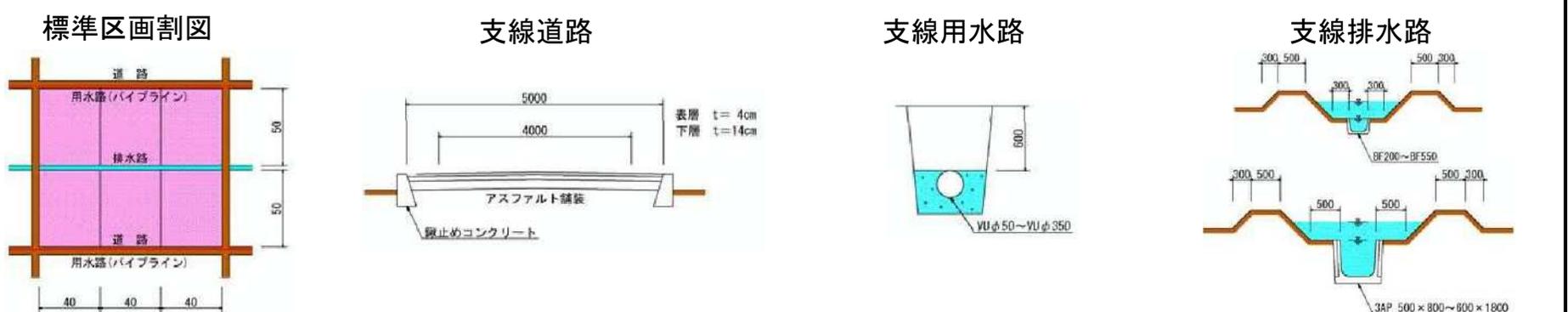
内用地補償費：0.8億円(0.3億円)

事業期間：H28年度～R10年度(R6年度)

事業概要：区画整理・用水路工(パイプライン)

費用便益比B/C：1.32(1.47)

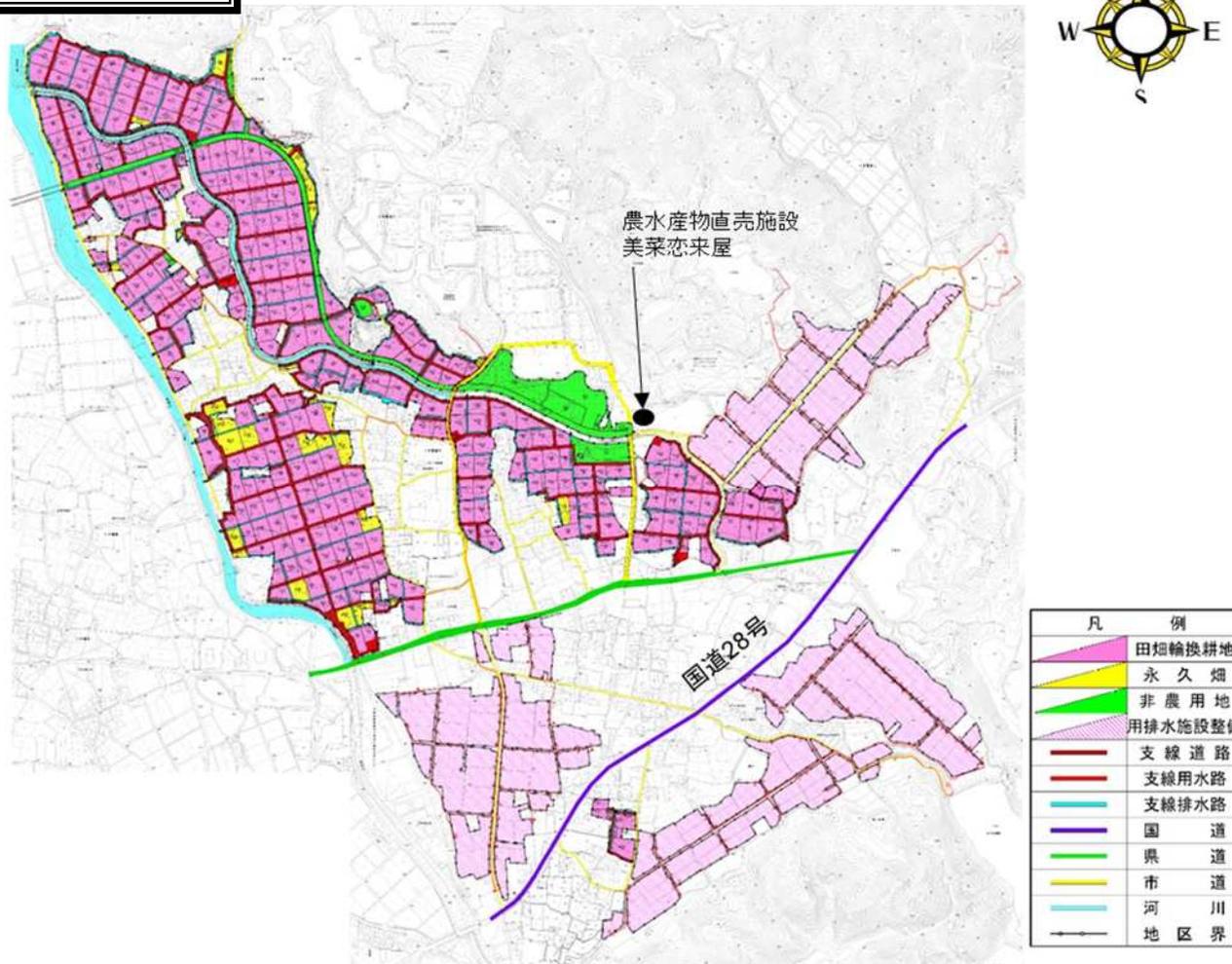
## 標準図



## 事業の必要性・優先性

- ①本地区は、営農意欲の高い専業農家が多数いるが、地区の北西部は区画が小さく、不整形なうえに、農道が狭いことから、小型機械での非効率な営農を強いられているため、ほ場整備をする必要がある。
- ②地区南東部は過去にほ場整備を行っているが、用水路が老朽化し、水管理に多大な労力を要しており、水管理の省力化を図るための条件整備が必要である。
- ③本地区に隣接する淡路島内の農畜水産物の需要拡大と農畜水産業振興の拠点として開設した「あわじ島まるごと食の拠点施設(美菜恋来屋(みなこいこいや))」の駐車場用地を本事業で用地創設する。

## 平面図



## 現況写真

### ①(小区画で不整形なほ場)



### ②(狭小な幅員の農道:約2.0m)

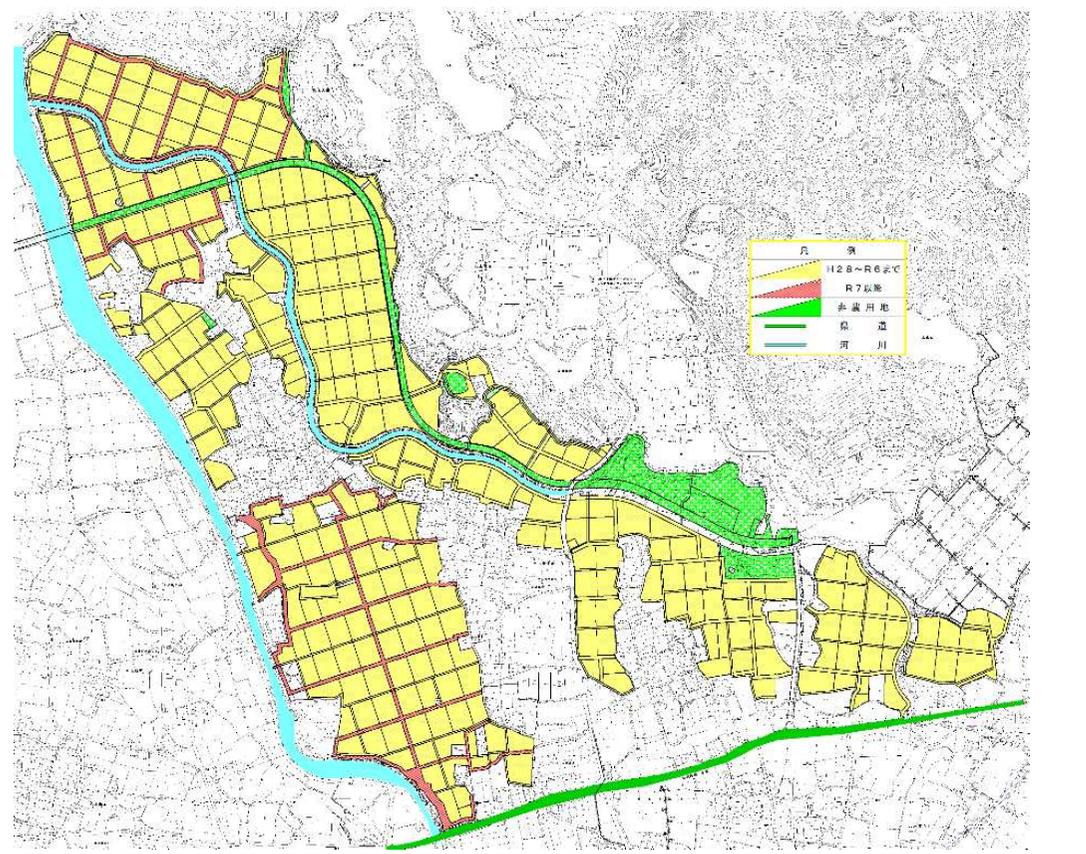


### ③(老朽化した用水路)



# 進捗状況

## 事業進捗平面図



# 現況写真

①(整備後のほ場)



②(拡幅された農道:幅員5.0m)



③(盛況な直販施設:美菜恋来屋)



## 工程表

■ : 前回計画  
■ : 実施・計画

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
設計・協議	■												
埋文調査	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
埋文保護工		■	■	■	■	■	■	■	■				
区画整理		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
用水路		■	■	■	■	■	■	■	■				
換地		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■



# 事業の有効性・効率性

## (1) 費用対効果

### ① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
作物生産効果	ほ場整備により農業機械導入が可能になることや用排水改良による単収の増加に伴い、作付面積や収量が増加する効果
営農経費節減効果	区画拡大や道路の整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴う労働時間の短縮や機械の共同利用などによる個別所有機械の処分に伴う機械経費が節減される効果
維持管理費節減効果	老朽化した施設の近代的な施設への改築や施設の新設による維持管理費の増減 (※通常は施設が新たに増えるため維持管理費が増となり、マイナス便益となる)
耕作放棄防止効果	事業実施によって労働環境が改善されるとともに、担い手への農地集積が進むことによって耕作放棄が抑制される効果
非農用地等創設効果	換地手法を用いて公共用地等を合理的かつ経済的に取得できる効果
国産農産物安定供給効果	国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果

### ② 費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
ほ場整備	農地整備事業	全体事業費	作物生産効果	(1,407)	労働時間の短縮による労働経費の節減	(2,679)	(1,924)	(755)	(1.47)
			865						
			営農経費節減効果	(2,532)					
			4,781						
			維持管理費節減効果	(△84)					
			△111						
			耕作放棄防止効果	(0)					
16									
非農用地等創設効果	(82)	76							
76									
国産農産物安定供給効果	(-)	231							
231									
計	(3,937)	5,858							

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
多面的機能の発揮に関する効果	①地下水涵養 水田が水田として利用され湛水されることで用水の一部が地下に浸透し、地下水の涵養を促進する効果	○	区画整理
	②農地や農村における災害の抑制 区画整理に伴う用水路と排水路の分離、畦畔の強化、排水路の大断面化等に伴い、洪水の防止・軽減が図られ、農地・農産物・農村の災害被害を抑制する効果	○	区画整理
農村の持続的発展に関する効果	③農村の活性化 営農機械化体系の変化により営農労力が質・量ともに改善されることにより、若い営農者の定着が促進され、農村が持続・活性化する効果	○	区画整理 用水路工
農村の振興に関する効果	④地域交通の利便性向上。 区画整理に伴い農道網が整備され、通作や農産物出荷が改善されるほか、生活道路を兼ねる農道については、地域の利便性・安全性が向上する効果	○	区画整理 農道舗装

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域農業の将来の在り方を定める地域計画策定にあたり、整備された優良農地を将来へ繋いでいくべく、担い手へ農地集積を進めていくとする話し合いが行われた。</li> <li>➤ 効果発現のため、早期の事業完了が求められている。</li> </ul>
-------	--